

「佐田谷・佐田峠墳墓群」遺跡説明会

高町・宮内町に所在する「佐田谷・佐田峠墳墓群」の遺跡説明会を庄原市教育委員会生涯学習課が主催し、開催されます。遺跡の特徴や重要性を分かりやすく説明されますのでぜひご参加ください。

日時：9月20日（火）13：30  
場所：高自治振興センター  
2階会議室



9月の行事予定 (9月1日現在)

振興区主催行事

10日（土）	子供絵手紙教室 9：30
14日（水）	大人絵手紙教室 13：30
17日（土）	子供習字教室 10：00

他団体行事予定

15日（木）	長寿会 9：30
15日（木）	マイナンバーカード 9：30
20日（火）	佐田遺跡説明会 13：30

高もみじの会	第2.4木曜日 11：00
グラウンドゴルフ	第2.4土曜日 9：00
高俳句会	第4月曜日 13：30
ふれあい給食	第2.4木曜日 11：00
琴和会	第1金曜日 9：00
手芸教室	第4土曜日 13：30
筆文字	第4土曜日 10：00
生花教室	第3木曜日 13：00
尺八同好会	第2.4土曜日 13：30
編み物教室	第1.3金曜日 13：00
パソコン同好会	第1.3火曜日 13：30
カラオケ同好会	第2.4水曜日 18：00
みうらグループ	第1.3水曜日 13：30

【編集後記】

朝晩が涼しくなりましたね。寒い時に震えるのは筋肉が摩擦を起こして体温を上げようとする働きだそうです。健康寿命向上セミナーで教えていただきました。季節の変わり目は体調を崩しやすいので、気を付けてお過ごしください。

八月の俳句  
手花火の明かりに母の若さ見ゆ  
歳度かかまへたるのみ 蠅叩はえたき  
ひとりぐらし 憚る人のなき昼寝はばか  
休暇果つ祖母を訪ねしあにいもと  
山波に錦雲ばかり夏模様

楓 紀子 窓風 寿瞬子 稔子 高俳句会

〈ご芳志のお知らせ〉

心より厚くお礼申し上げます  
高地区社会福祉協議会

香典返し 小用町 平尾 栄様  
(故人 平尾 タツコ様)  
小用町 林 純三様  
(故人 林 訓三様)  
川西町 和田 裕浩様  
(故人 和田 八恵子様)  
見舞返し 高町 國林 昌弘様



TAKAJICHI  
Instagram



ホームページ



高自治振興センターだより

〒729-5811 庄原市高町821-4 TEL72-0935 令和4年9月5日発行



青空市場を開催しました

「にぎわい」と「楽しみ」をつくりたいという思いを込めて、高地区在住の高校2年生6人が“高小グループ”を立ち上げ、8月11日（木・祝）に高駅前広場にて「青空市場」を開催しました。6人は実施に向け6月から定期的に集まって準備をかさねて来ました。コロナ感染予防のためテイクアウトのみとし、パンやコーヒーなど13種類、約200個を販売、自治振興区・高地区社協も協賛し、高地域の方に菊の花や鮎、野菜などを販売してもらい、多いに盛り上げていただきました。

当日は9時の開店と同時にたくさんの方でにぎわい、約30分でほぼ売り切れになるなど、盛況のうちに終了することができました。今後も定期的に高駅前広場を利用し、地域の賑わいの場所づくりに取り組む予定としています。開催にあたりまして沢山の方にご協力をいただき、ありがとうございました。



高小グループの皆さん



高地区戦没者慰霊祭

終戦から77年を迎え、令和4年度の高地区戦没者慰霊祭を8月7日（日）午前9時より馬場地区の大御堂にて執り行い、高地域の112名の戦没者のご冥福をお祈りしました。ご遺族の高齢化も進み年々参加者が減っている中、戦争の悲惨さと平和への願いを忘れないようにと思いをはせるとともに、改めて高地区戦没者慰霊祭の大切さを感じました。





## オリジナルTシャツを作りました



夏休みを利用し、8月9日（火）に「オリジナルTシャツ作り教室」を実施し、29名の児童が参加しました。白いTシャツに食紅のインクでレンコンや玉ねぎなどの野菜をスタンプにし、個性溢れるTシャツを作りました。



## 健康寿命向上セミナーが行われました



庄原市社会福祉協議会が主催の「第1回健康寿命向上セミナー」が8月29日（月）に行われ、23名の方が参加されました。今回は「運動機能向上とフレイル予防」教室というテーマで行われ、前半は講師の矢吹祐次先生に、歩きやすい体を作るストレッチや、簡単なトレーニング方法を教えていただきました。固まった筋肉や動きの悪い関節を無理に動かすと怪我や痛みにつながるため、始めに椅子や床に座って、テニスボールのようなボールで足の筋肉をほぐしてから可動性向上のストレッチをすると良いそうです。後半は庄原市保健医療課の本山美土里保健師さんに歯の健康（オーラルフレイル予防）について教えていただきました。口腔内の機能が衰えると全身の健康に悪影響を及ぼす危険があります。  
“歯磨きを基本に” “噛む力を鍛える” “半年に1度は歯科健診を受ける” を意識して、口腔内を健康に保ち、健康寿命を延ばしましょう。



## かぼちゃの重さ当てクイズ実施中

今年も明賀の田村虎和さんに「巨大かぼちゃ」をいただきました。今年は2個いただき、駐車場横に1つ飾り、もう1つはロビーにて「かぼちゃの重さ当てクイズ」を行っています。

センターにお越しの際は是非ご参加ください。締切りは9月22日（木）です。

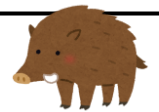


## マイナンバーカード取得促進について

庄原市職員が高自治振興センターにてマイナンバーカードの取得申請サポートを行います。取得を検討されている方で、マイナンバーカードの申請方法が分からない方はこの機会にご利用下さい。

日時：9月15日（木）9:30～16:00  
持参物：「QRコード付き交付申請書」または「マイナンバーが分かるもの」

## イノシシの被害を防ぐために



### 最終回 『イノシシの対策の決め手』

著 柳井 徳磨

野生獣対策には現在のところ決め手はありません。幾つかの方策を組み合わせるしかないと思われます。庄原のように森が広く、それぞれが連続している地勢では、野生獣の逃げ場があるので、根絶が困難です。地形が島や半島であれば、しばらくの間イノシシを根絶することで農業被害を抑えることができます。例えば、江戸時代に対馬（現長崎県）では、イノシシが増えて農作物を荒らすので、全島で延べ約30万人の住民を動員して、絶滅させたと伝えられています。しかし、イノシシに替わってシカが増えて、シカの害が増えた、さらにイノシシの食料になっていた野ネズミ、キジ、マムシも増えて、別な獣害や人への被害も増えたと伝えられています。イノシシが居なくなると、自然界全体にも大きな影響があることも考えられます。では、どうすれば良いか、ということで「野生動物の管理学」という学問分野が導入されています。

イノシシ対策の基本は、シカと同様、狩猟であると思われます。銃猟や罠猟でイノシシの数を減らし、山の幸（ジビエ）として活用することが大きな柱となります。残念ながら、庄原でも猟師さんの高齢化が進行しているようで、その減少は大きな課題です。私も、庄原に移り10年ぶりに罠猟の免許を取り直しました。県三次支所で狩猟免許試験を受けましたが、会場に若い方と女性が多いのを見て少し安心しました。自分の農地は自分で護るという気持ちの現れでしょうか。狩猟を盛んにすることで、イノシシがもっと人を怖がるようになり、イノシシとの接点が、里山から山側に押し戻されるのを期待しています。米国や北欧ではスポーツ・ハンティングが盛んで、小さい時から銃の扱いと獲物の捌き方を親から習っている場合が多いと思います。まずは、リスなどを標的に練習をはじめ、次第にイノシシやシカを獲物にします。以前にスウェーデンの田舎を旅行した時に、農家の庭先にクマの骨が転がっており、動物性蛋白の6割は野生獣から得ているとの話を聞いたときに、日本の里山の状況との大きな違いに驚きました。最近のジビエブームで、イノシシやシカの肉が高値で取引されるようになると、少しずつ状況は好転するのではないかと考えます。

私の場合、畑を始めて、まずは畑全体を囲むように市販の電気柵を設置しました。数千ボルトの電流が流れますのでイノシシにとっても不快な記憶となり、少しは怖がるようになり、作物が護られると考えています。ただ、電柵の下草の管理がとても大変で、草が電線に触れないか毎日の見回りが欠かせません。また、賢い動物なので、美味しい作物を見つけると、電線を飛び越えたり、トンネルを掘ったりして、超えるかもしれません。最小限の対策としては、電柵は必要と考えます。

その他、金網柵の設置などもしばしば見ますが、補助金なしには設置は負担が大きいですし、電柵と同じで、斜面などでは飛び越えますし、トンネルを掘られ突破されます。また、取り囲むように設置しますので閉じ込められたようで窮屈な感じがします。イノシシを誘因するような果樹や野菜の残りを無くすることも野生獣対策の一環としても重要であると思います。

里山が崩壊して、広葉樹の森が広がることは多様性ということではよい面がありますが、野生獣の棲みやすい環境も形成される場合もあります。そのため、里山の周囲の山林を伐採して、里山の境界を山側に押し戻す方が最近の環境税などの財源を活用して行われていると聞きますが、一定の効果が期待できるのではないかと考えられます。ヤギなどの家畜が里山の境界付近で放牧されているとイノシシは近寄ってこないと言われてはいますが、柴犬や秋田犬等の猟犬兼用の愛玩犬も野生獣は嫌って避けるので、いずれは飼いたいと考えています。

イノシシ対策は里山の住人が連携して、一斉に実施することで効果があると考えられますが、空き家があると対策も歯抜けとなりますので、結局、過疎化を防ぐことが不可欠です。

※柳井徳磨先生、ご寄稿ありがとうございました。（事務局）